

クリスチャン新聞 2013年11月24日号
◎ 釜山で世界教会協議会(WCC)第10回総会
—いのちの神に「正義と平和」巡礼

「いのちの神よ、私たちを正義と平和へと導いてください」—この祈りを主題に、世界教会協議会(WCC)は10月30日から10日間、韓国・釜山にある国際会議・展示場BEXCOで第10回総会を開催した。345の加盟教会からの代表を含めて、世界100か国以上から4千人以上が参加。最終日の11月8日に発表した「WCC第10回総会のメッセージ」で、ルカ1章78—79節、詩篇106篇3節などを引用しつつ、世界の「姉妹兄弟たち」に対し、「正義と平和の巡礼に加わってください」と呼びかけた。【A P E N・行本尚史】

WCCのオラフ・フィクセ・トゥヴェイト総幹事は、11月7日に会場で行われた記者会見で、この総会は「エキュメニカル運動と世界教会協議会に重大な契機をもたらした」と語った。

主題との関連で、南北に分断された朝鮮半島の平和と再統一を大きな特色の一つとした今回の総会には、前々回のハラレ総会(ジンバブエ)や前回のポルト・アレグレ総会(ブラジル)と異なり、北朝鮮からの参加者の姿はなかった。しかし初日の事務全体会議では、平壤にある朝鮮基督徒連盟委員長のカン・ミョンチョル牧師からのメッセージが、ウォルター・アルトマンWCC中央委員会議長(当時)によって読み上げられた。

プログラム指針委員会は、正義と平和の巡礼により幅広いエキュメニカル運動や国際組織が関わるようにするための方法論を探究するよう中央委員会に求めることなど、合計8つの勧告を含む報告書を総会に提出し、承認された。

10月31日の主題に関する全体会議で、エジプトのコプト教会のウェダッド・アブバス・トーフック博士が主題講演。一部のイスラム教徒によって迫害を受ける中、「苦しみの中でいのちの神を証しすることは実に難問だが、エジプトの諸教会は真の証し人となり、忠実に祈っている。『いのちの神よ、私たちを正義と平和へと導いてください』と」と語った。

また、国連エイズ合同計画のミシェル・シデベ事務局長が「諸教会 | 排除に対するバリケード」と題して演説した。

スリランカ聖公会のデュリープ・デ・チケラ主教は同じ主題に関する全体会議で、「正義と平和は神の無償かつ、お金では買えない贈り物」であり、「総会の主題はしたがって恵みの時である。それは神の世界における様々な暴力や不正義の表れに関わるよう私たちを導いて下さるいのちの神との旅路に私たちを招いてくれる」と述べ、「そのような関わりは、水を求めて必死な時に世界の貧しい人たちがもつ強靱さをもって私たちが努力した時に初めて変化をもたらす」「私たちは両手でシャベルを持たなければならない。いのちの神が正義と平和を生ける水の流れのように流して下さり、創られた世界全体が新しくされるために」と結んだ。

11月4日の宣教に関する全体会議では、昨年9月にWCC世界宣教・伝道委員会が提出した、宣教と伝道に関するWCCの新たな確認のための文書である「共にいのちに向けて 変動する地平における宣教と伝道」に基づく議論が行われた。5日には諸教会の一致に関する全体会議が行われ、8日には神の賜物と一致への招き、そして自らの責務・経験と、聖書的な展望の共有などが記された「一致の声明」(改訂版)が採択された。

また、「宗教の政治化と宗教的少数者の権利」「朝鮮半島の平和と再統一」「国家のない人々の人権」「正義をとまなう平和の途上にあって」など合計12件の公的諸課題に関する声明や覚え書き・決議を採択する提案が承認され、11件は採択されたが、**「核のない世界に向けて進む声明」については賛否両論が残り、来年7月の中央委員会の会合で審議されることとなった。**